

土木学会誌アンケート結果報告：その1 アンケート結果概要

広島工業大学	正会員	○田中 聖三
三井住友建設	正会員	田邊麻由子
五洋建設	正会員	菊原 紀子
国土舘大学	正会員	二井 昭佳

1. はじめに

土木学会誌は、1915(大正 4)年 4 月に創刊し、土木学会の広報活動の中心となる月刊の機関誌であり、土木学会員の特典として毎月約 4 万部を発行している。教養誌としての役割を担い、2008 年 1 月号からは読みやすさの観点から「縦書き」に新装刊し、土木分野を社会にアピールしている。土木学会誌では土木業界の最新情報など読者が興味を持ちそうな様々な記事を扱うが、毎月ウェブサイトで募集している読者アンケートの回答数は1桁と少なく、読者の要望に即した学会誌となっているか把握できていないことが課題であった。そこで、土木学会誌 2023 年 6 月号の特集¹⁾では土木学会員または土木学会誌を読みうる方を対象に学会誌に関するアンケートを実施したので、その結果を報告する。

表-1 アンケート調査概要

期間	2022年11月15日～12月23日（39日間）
対象	土木学会員ならびに土木業界の職に従事する人
形式	Web形式（GoogleForm）
回答数	3,165件

2. アンケート概要

(1) アンケート概要

アンケート調査の概要を表-1 に示す。アンケート実施の際は、土木学会各小委員会や編集委員が所属する団体・企業への協力依頼、イベントやウェブサイトでの募集案内などを行い、各方面へ周知を行った。その結果、上記期間で 3,165 件という多数の回答を得られた。なお、アンケート全結果は土木学会誌ウェブサイトに掲載しているので、ぜひご覧いただきたい²⁾。

(2) アンケート項目

アンケート項目では、1)回答者の属性、2)現在の学会誌に対する考え、3)これからの学会誌に対する要望の 3 つについて複数の質問を設けた。図 1～3 に回答者の属性を示す。

(3) 回答者の属性

全回答者のうち、約 7 割が会員（名誉会員、学生会員などを含む個人会員、法人会員を含まず）であった。また、年齢は 10・20 代、30 代、40 代、50 代、60 歳以上の 5 段階で区分した。所属先は建設会社が多く、建設コンサルタント、学校関係が続く、学会全体の構成比とは少し異なるが様々な所属の方から回答を得た。入会の理由は、「論文投稿などのため」と「所属先からの入会推奨」で 7 割を占めたが、「学会誌を読むため」との回答も 1 割弱みられた。

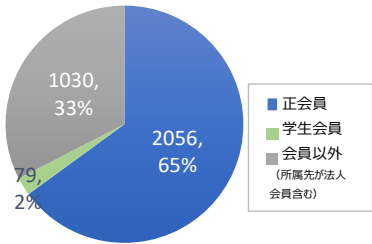


図-1 回答者の会員種別

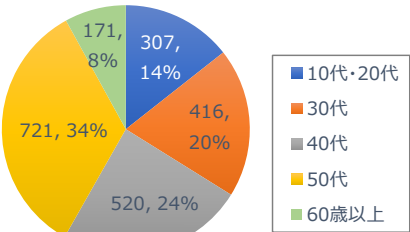


図-2 回答者の年代 (会員)

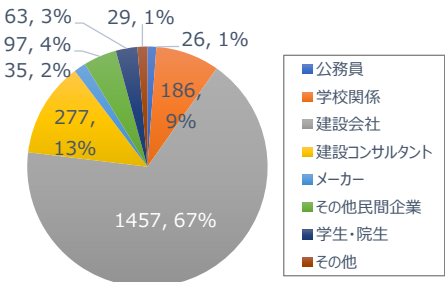


図-3 回答者の所属先

3. アンケート結果

本報告では、学会員の回答に着目する。

(1) 読む頻度

学会誌が届いた際に読むかという設問では、全体の約76%が「毎号」「ほぼ毎号」「ときおり」読んでいますと回答した（図-4）。

(2) 読む目的・理由

読んでいますと回答した人の読む目的（理由）については「興味のある記事だから」、「自身の業務や専門分野との関連が深い」が最も多く、次に「知人や付き合いのある会社などが登場しているから」であった。また、学会誌の活用方法は、読む理由とも関連して「知識・情報収集」が最も多い回答となった（図-5）。

(3) 読みたい特集テーマ

土木学会誌の構成は「特集」と「連載」に分かれる。特集は各月号でテーマを設け、様々な専門家・関係者の記事や対談・座談会などが掲載されている。一方、連載はあるテーマについて、毎月、対象となる方に記事を執筆いただいている。ここでは、読みたい特集テーマについて報告する（図-6）。

10・20代では「人（働き方、D&I、教育など）」や「業界紹介」などが高く、業界自体を知りたいという印象を受けた。一方で、30代以上では「事故・災害」「最新の/ホットな技術・分野のこと」など業界の情勢や動向が高まる傾向があった。また、「構造物」「歴史や国土計画」「海外のこと」も一定の割合があり、技術や業界だけでなく、知識や教養を高めるテーマが幅広く求められていることが分かった。

4. まとめ

土木学会誌に対するアンケート結果から、会員の多くの方が様々な目的で読んでいます結果が得られた。働き方改革に伴う業務の効率化や活字離れなどが進んでいる中、4万部を発刊している土木学会誌は学会員の教養誌・広報誌として会員たちに様々な情報を提供できる貴重な媒体だと言える。我々編集委員は今後の学会誌の位置付けや存在意義も含めて考えながら、より多くの読者が満足するような誌面作りに向けて、日々研鑽していきたいと思う。

謝辞：アンケートにご協力いただきました方々ならびにアンケートの周知にご協力くださいました委員会、団体・企業の方々に心からお礼申し上げます。

参考文献

- 1)土木学会誌第108巻6号「これからの時代の土木学会誌のありかたを考えよう」土木学会,2023.
- 2)土木学会ウェブサイト：<https://www.jsce.or.jp/journal/index.shtml>

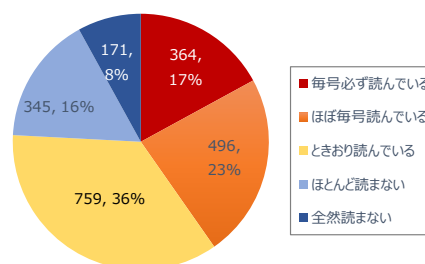


図-4 読む頻度

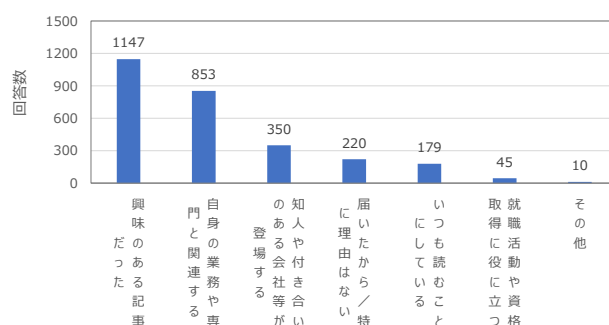


図-5 読む目的・理由（複数回答選択）

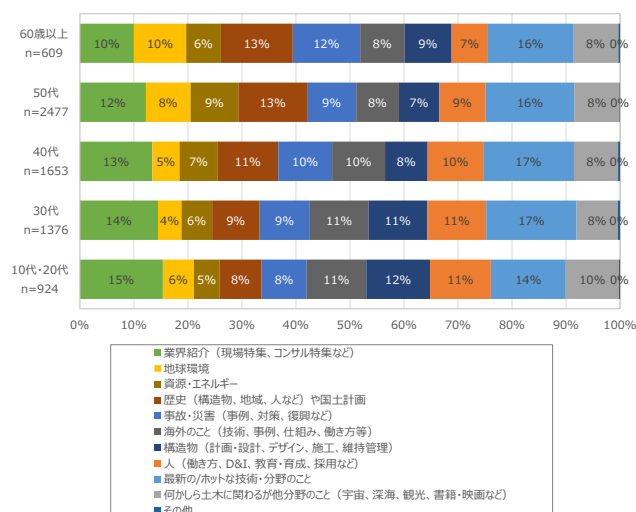


図-6 年代別の読みたい特集テーマ（複数回答選択）